

# 告白4

落合博実

元朝日新聞編集委員

権力の広報機関に安住する

新聞が生き残れるわけがない。

落合博実（おちあいひろみつ）元朝日新聞編集委員

1941年5月10日、東京都生まれ。産経新聞記者を経て、1970年から朝日新聞記者。長年、大蔵省（現財務省）と国税庁を担当し、数々のスクープを飛ばす。編集委員時代、それまで新聞が看過してきた警察と検察の腐敗を積極的に追及する。2003年、朝日新聞社退職。現在、ジャーナリストとして活躍し、著書に『徴税権力』（文藝春秋）などがある。



## 愛知県警の裏帳簿を握りつぶした朝日新聞社

——1996年8月26日、『朝日新聞』が愛知県警の組織的な裏ガネづくりをスクープしました。記事を書いたのは落合さんですが、掲載にいたるまでには紆余曲折があったそうですね。

**落合** 記事の見出しは、1面が「会計検査院 愛知県警に立ち入り検査へ」、社会面が「カラ出張で裏金 年1000万円 ゴルフ代やせんべつに」というもの。裏ガネの原資や使途が細部にわたって記載された愛知県警総務部の「裏帳簿」をもとに書いた、極めて正確な記事です。

実は、この裏帳簿を入手したのは記事掲載の16年も前の1980年のことでした。提供してくれたのは愛知県警の中堅幹部。初めて見る現物の裏帳簿には圧倒されましたよ。饒別やお祝いなどの慶弔費のほか、「部長、私用タクシー代」「部長舎カーテン代」といった総務部長や上級幹部への支出も多かった。すぐに記事にしたいのはやまやまでしたが、情報提供者は現職警察官。彼の定年退職後の1984年に記事化しようとしています。

当時、私は社会部員兼企画報道室員だったため、柴田鉄治・社会部長と谷久光・企画報道室長に事情を打ち明けると、即座にGOサインが出ました。社会部の後輩記者を助っ人につけてくれ、2人で計6本の予定稿を書きあげました。ところ

【カラ出張で裏金 年1000万円】

1996年8月26日の『朝日新聞』朝刊は、「朝日新聞社が入手した文書類は、愛知県警本部の中枢部局である総務部の一九八二年まで十数年分の裏帳簿や旅行命令簿、伝票類など。関係者の話や帳簿類によると、総務部では当時各課でカラ出張を行い、その旅費をプールする方法で裏金をねん出。裏金に回したのは、旅費予算の八割にものぼる。裏金の額は総務課だけでも年間五百万円を超していた。総務・会計・広報など五課があった総務部全体では、一千万円を超していたとみられる」となると報道した。

が、あとは愛知県警への直接取材を残すのみ、という段階になって、急に編集局長からストップがかかったと聞かされたのです。

話を聞きつけてすぐに中川昇三・編集局長次長を問い詰めましたが、中川さんからは詳しい理由は一切聞けませんでした。

「青臭いこと言うなよ」

「これは業務命令ですか」

「そんな堅苦しいこと言うなよ」

こういうやりとりが続きました。

「納得できません。全国の警察組織で同様の悪事が行われているはずですよ。国民が納めた巨額の税金が裏ガネ化され、警察幹部が私的に使っているのですよ。これを記事にできないようなら『朝日』は言論の自由を標榜することはやめましてという社告を出してください」と私が詰め寄ると、「そこまで言うなら、辞表を出してもらおうしかないな」と。冗談めかした言い方でしたが、目は笑っていませんでしたね。

しかし、ここまで言われると、情けない話だけど妻や子どもの顔が脳裏をよぎります（笑）。結局、記事掲載の可否は富森叡児・編集局長の裁定を仰ぐことになり掲載は不可となったと、柴田さんは中川さんからあとで聞かされたそうです。しかし、富森さんはずいぶんあとになって、「そういうことがあればハッキリと



警察の取材をめぐり、北村はデスクと衝突し、新聞社を退職する。